
友達の詩

夏目洋介

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

友達の詩

【Nコード】

N9452D

【作者名】

夏目洋介

【あらすじ】

信じよう。人と人とのつながりはそんなに薄っぺらなものじゃない。

友達の詩

疲れた・・・

本当はそんなに面白くないのに

友達の話に無理矢理笑顔を作ってる

そんな自分が

本当に

疲れる・・・

何でこんなことしなきゃならないんだろ？

ある日僕は

必死につかんでいた友達の手

離してしまった

僕はみんながいる場所から”下”に落ちてしまった

僕は必死に手を伸ばした

”おゝい、みんな”

でもみんなはみんなで必死に手を握っていて

誰も僕が存在に気付いてくれない

僕がつかんでいた友達の手は

もう違う友達とつながれてしまっている

僕がつかむところはもうどこにもない

”上”ではみんな僕なんか元からいなかったかのように

仲良く手を握っている

僕は泣いた

自分の存在を否定された

一人なんか嫌だ

死んでしまいたいよ・・・

・・・

(はい)

えっ？

(ほら手を伸ばして)

う、うん

僕の手はまた握られた

何で？

そつ、誰も”上”にも”下”にもいなかったんだよ？

みんな”右”に”左”にいるだけなんだよ？

全部君が勝手に考えたことなんだ

離してしまった手はまた誰かとつなげばいい

疲れたら離してしまえばいい

また握ってくれるから

握ってくれる所にいるから

みんなそうやって生きているんだ

それが・・・

友達なんだ

信じよう

友達なんだから

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9452d/>

友達の時

2010年10月21日23時10分発行